



く別院だよりく

モダン寺新聞

第19号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒650-0011
神戸市中央区下山手通八丁目一番号
TEL 078-341-5949

一口法話 「勝手な人間」

現代の科学技術は行きつくところまで行きついたようです。科学技術で叶えられないものは無い、まさに六道で言う「天人」の世界であります。しかし、人間が駆使しているようで、その進歩についていけないでいる私達の姿があります。「鳥インフルエンザ」の問題も、「オゾン層破壊」が原因だとか、「知恵」「知識」を頼りに「科学」を信奉し、いのちの根本を見失っている私達の姿があります。人間が直面しなければならぬ現実である「老病死」の問題も、向き合う事が出来なくなっているように思われます。

作家、高史明師は御子息の自死により、我が子の事を知っているようで向き合っていない事に気付かされたようです。そんな時、「死にたい」と一人の女性から電話がありました。高師はこう応えられたそうです。「貴方の何処が死にたいと言っているのか。」女性は何を指したそうです。高師は続けてこう応えられました。「手も足も死ぬ。頭だけで判断してはいけません。足の裏に聞け。足の裏は私の体重を支えている。また、それを支えている大地の支え、はたらきに目覚めよ」、まさに人間の思い上がり、いのちを見失いがちになっている私の姿に気付かされた内容であります。私一人が生きてやっているのではなく、手も足も大地の支えにより、生かされているのに、この事を「我執」というものが見えなくしていると思われまふ。

「道光明朗超絶せり 清浄光仏とまうすなり ひとたび光照かぶるもの 業垢をのぞき解脱をう」『讃阿弥陀仏偈和讃(九)』

この「道光」とは全てのものは道によって生み出され、各々の姿によりあらしめられるという意味です。そのような理に気付かされた者は心が明るく朗らかになるという事です。その「道光」とは「清浄光仏」即ち「阿弥陀如来」の事です。いのちの根本を見失いがちになっている私達に、「気付けよ、目覚めよ」という阿弥陀如来の声を聞いていかなければならないと思います。その声がお念仏であります。お念仏を称えるという事はそのような、我執まみれの自らの姿に気付かされ、そのような私をも見放さない、「生かされている」という阿弥陀如来の願いに気付かされる次第であります。

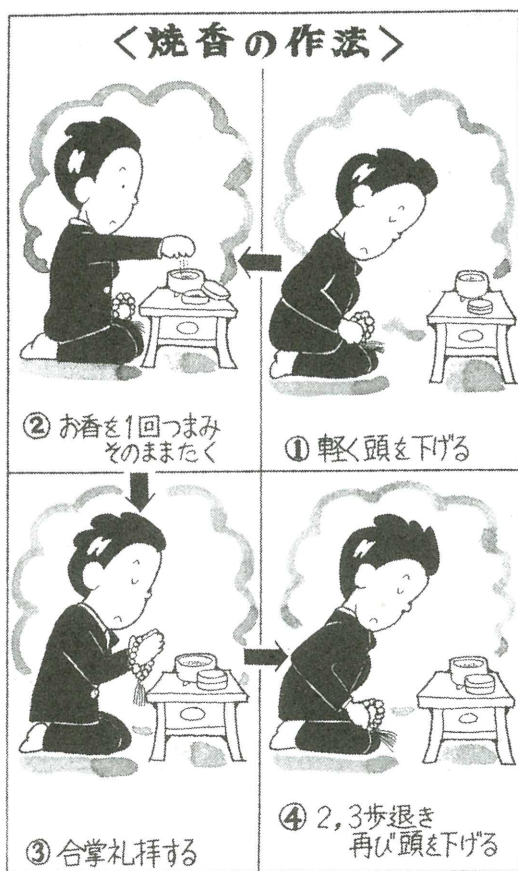
神戸湊組 高松寺 谷川 弘 淳

知っていますか？ 焼香の作法

みなさん葬儀や法事といった仏事の席に向かわれることが、あると思いますが、仏事の席で多く見られるのが、『焼香』です。正しい『焼香』の作法を皆さんはご存知でしょうか。「なんとなくこんな感じかなあ」とされている方が多いのではないのでしょうか。そこで、今回は、浄土真宗における『焼香』の正しい作法をご紹介します。

まず、焼香の作法の中で、皆さんが気にかけるところは、お香をおしいただくかいただかないか、お香を何回焚けばよいのかという点ではないでしょうか。これが分かっているため、案内外戸惑ったり、ぎこちなかったりすることが見られます。私たちの浄土真宗本願寺派の作法では、
「お香はおしいただかない」
「お香を焚くのは一回」となります。

では、もう少し詳しく焼香の作法を説明します。下の挿し絵を見ながら読み進めてください。



① 尊前（ご本尊の前）の二、三歩手前で、軽く頭を下げます。

② 進み寄って、まず香盒（お香の入っている入れ物）の蓋を取ってその縁に掛け、お香を一回つまんで、そのまま（おしいただかず）香炉に入れます。また、お香をつかむ前に合掌礼拝はいりません。

③ 香盒の蓋をして、合掌・お念仏（南無阿弥陀仏と唱える）・礼拝をします。

④ 礼拝が終われば、二、三歩後退して軽く頭を下げます。

以上が浄土真宗の正しい焼香の作法となります。

早速、ご自宅のお仏壇でされてみては、いかがでしょうか。

参考文献

（本願寺出版社「仏事のイロハ」）

焼香とは？

焼香は、仏教の儀式には欠くことのできないものであり、お

釈迦さまのご在世の当時から行われていたと言われています。

浄土真宗において最も重んじられる浄土三部経の一つ「仏説無量寿経」には、

一切万物がみな、無量の雑宝や百千種の香をもって共に合成し、その香りは普く十方世界に薫ぜん

とおっしゃっています。薫ぜん、つまり、香りをもって浄土のはたらきを教えられています。

お香を焚く、すなわち、焼香をするということは、その薫香により、仏前を莊嚴（おかざり）すると共に、浄らかな光明の世界（お浄土）を思い浮かべるご縁となります。

お念珠でのお参りだけではなく、尊いご縁なのですから、是非、ご参列の際には、焼香をして下さい。

（インターネットホームページ「河久保同行の部屋」より）

また、香炉と香盒をお盆にのせて各々に回す「回し焼香」という作法もあります。ご自宅のご法事等で焼香をされる際には、こちらの方をお勧めします。

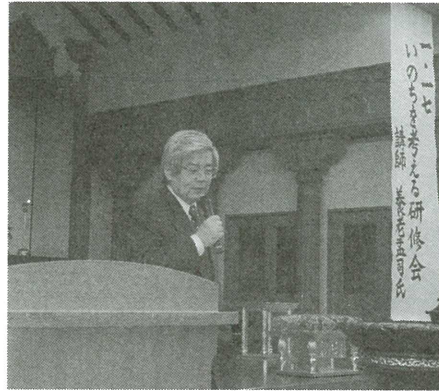
◆◆◆神戸別院行事レポート◆◆◆

阪神淡路大震災物故者総追悼法要

大震災から早くも九年という月日が経ちました。色あせていく記憶ですが、失われた命に手を合わせ、震災の事を思い返す縁としていただくため毎年今法要を勤修しています。まず、本堂で正信偈作法のお勤めをいたしました。その後の別院輪番のあいさつの中に、「震災の直後、皆さんが手と手を取り合って一生懸命生活していたことを思い出しましょう。」という言葉があり、聞かれていた方々はその言葉に大きくうなずかれていました。

法要後は引き続き本堂に於いて、「いのちを考える特別研修会」を開催しました。今年は、ベストセラーになった「バカの壁」の著者、養老孟司氏をご講師に迎えました。人気のおかげか、約三百人という大勢のご参拝をいただきました。九十分に渡るお話は、養老氏の独特ないのちをとらえる視点からだされる、切れ味鋭い論調で、聞い

ている私たちが時には納得させたり、時には考えさせたりと、休む暇を与えない調子で淡々と語られておられました。一味違うお話を聞かせていただき、有り難いご縁をいただきました。



講演中の養老孟司氏の様子

春季彼岸会

お彼岸にあたる三月十九日から二十一日までの三日間、神戸別院本堂に於いて春季彼岸会を勤修しました。今回の法要には、出石組勝林寺より西池哲俊師をご講師にお迎えしました。

また、二十日の午前、「第十回門信徒の集い」を開催しました。今回は、別院の職員がそれぞれ役になりきり、ある法事の風景の劇をしました。その劇を見た後、お参りに来られていた方々を五つのグループに分けて、話し合いをしていただきました。話し合いの内容はそれぞれのグループに事前にこちらが用意したテーマを提示し、そのテーマについて話し合っていたいただきました。テーマについての話から、日ごろから法事等の仏事に関して思っていたこと、疑問に思っていたことなどの意見を出し合い、大変有意義な場を持たせていただきました。そして、最後は輪番のあいさつを持って、今回の門信徒の集いを締めくくりました。

また、この日は、別院仏教婦人会の方々のご協力で、おはぎを作っていたいただき、お参りに来られたみなさんに、お配りしました。

こうして無事今年の春季彼岸会も終わりました。暑さ寒さも彼岸までという言葉通り、外はすっかり暖かくなっていました。

平成十六年 年忌早見表

- 一周忌 平成十五年
- 三回忌 平成十四年
- 七回忌 平成十年
- 十三回忌 平成四年
- 十七回忌 昭和六十三年
- 二十五回忌 昭和五十五年
- 三十三回忌 昭和四十七年
- 五十回忌 昭和三十年

※ご法事の際の日時等のご相談につきましては、まず別院の方に一報いただきますようお願いいたします。

土曜子ども会 元気に活動中!

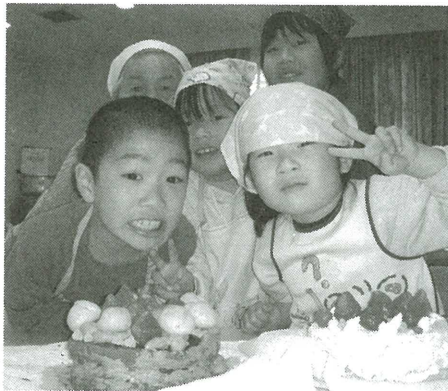
ぼくらわたしら ほとけのこと
とうといみおしえ いただいで:

これは、モダン寺土曜子ども会で最後に歌う「さよならの歌」の一部分です。

モダン寺土曜子ども会は、今から九年前に発足という、兵庫教区の中では、比較的新しい子ども会になります。主に毎月第四土曜日の午前十時よりお勤めをした後、季節に添ったクラフト作り、ゲームやイベントなどを行います。それが終わると、お菓子をみんなにいただきます。最後は、「さよならの歌」で解散するという流れになります。

今現在、下は六歳から、上は十二歳までの合計十人のお子さんが来られています。年齢に関係なく、その日のリーダーや、その他の役割をそれぞれ担当してもらおうのですが、みんなやりたがって、ジャンケンやくじで決めることが多くなります。

年間の主なイベントとしましては、四月に花まつり（お釈迦さま



2月はみんなでケーキを作りました。

のご誕生をお祝いする行事)、八月にはサマースクール(今年は姫路にいきます)、十二月には、モダン寺で報恩講子ども会がつどいがあります。昨年の報恩講子ども会つどいは、兵庫教区中から、約百五十人の参加があり、人形劇を見たり、やきそば、わたアメ、カレーライスをみんなで食べたりと、賑やかに過ごしました。

さて、来る四月二十四日午前十時から、本堂にて、花まつりをいたします。ご門徒の方、そうでない方問わず、気軽に参加いただいて結構です。お待ちしております。

図書販売、貸出しています

神戸別院では、二階事務所に於いて図書販売をおこなっています。

ご門徒向けの経本、浄土真宗聖典、専門的な仏教書から入門向け仏教書、また、絵本等取り揃えています。

また、販売用とは別に、貸し出し用の本、ビデオも事務所に置いてあります。

貸出用

ビデオ

- お釈迦さま (アニメ)
- お釈迦さまの道 前後編
- 親鸞の寺 (アニメ)
- ウパリーの出家 (アニメ)
- 王舎城の悲劇 (アニメ)
- 子供たちよ (アニメ)
- 蓮如さま (アニメ)
- アジャセとダイバダッタ (アニメ)
- 極楽浄土 (アニメ)
- 日本の美 (西本願寺) TV録画
- お仏壇のおかざり

この他にも揃えてあります。

販売用

- 浄土真宗聖典 七祖篇
- 蓮如上人御一代記聞書 現代語版
- 顕浄土真実教行証文類 現代語版
- 研修読本
- 聖典セミナー 観無量寿経
- 宗門法規集
- 仏教賛歌
- 浄土真宗 必携
- 朗読法話集 第一部 第二部
- 聖典 勤行集
- 朝には紅顔ありて 大谷光真
- やさしい真宗講座 霊山勝海
- 浄土の慈悲 石田慶和
- 孤独が癒されるとき 藤澤量正
- ひらがな正信偈
- 金子みすゞいのち見つめる旅
- やさしい真宗教義のQ&A
- 阿弥陀経のことばたち
- 親鸞聖人ものがたり
- 蓮如上人ものがたり
- 環境問題を考える

絵本

- 親鸞さま
- お釈迦さま
- ごおん
- 雨上がりのベンチ
- 人物まんだら
- とくとくとく
- ちようになつた

この他にもいろいろ揃えてあります。

別院揭示板

心機一転！

よろしくおねがいします。

桜舞い散る春、月日は知らず
らずの内に重なり、ついこの間お
正月を迎えたと思っていいたら、い
つの間にか四月となりました。

四月という季節は、学校では入
学、会社では入社、転勤など、始
まり、環境の変化が多い季節です。
この度、神戸別院内でも、人事異
動をいたしました。その結果、み
なさんの所へお参りに行く者の顔
ぶれも少し変わることになりました
なので、ここでご紹介させていた
だきます。

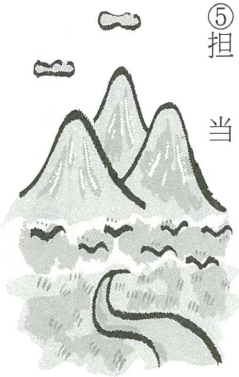
(紹介欄の見方)

①年 齢 ②出身地

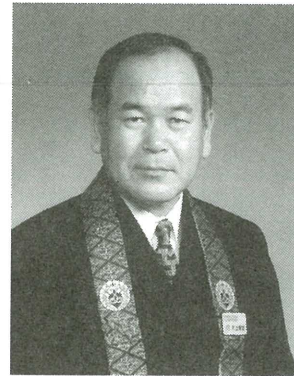
③勤続年数

④座右の銘

⑤担 当

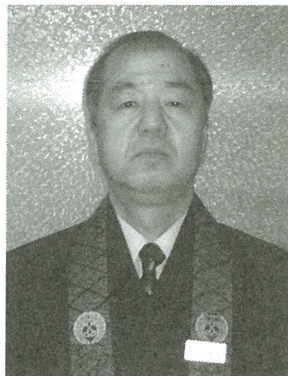


【輪 番】井上 博雄



①五十五歳 ②滋賀県
③三年
④一人はみんなのために
みんなは一人のために

【副輪番】安井 秀顕



①五十四歳 ②兵庫県
③二十六年
④あるがままに
⑤法務主任

長尾 真



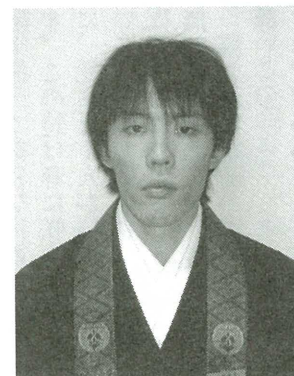
①三十五歳 ②香川県
③十年三ヵ月
④おかげさま
⑤別院仏教壮年会担当
門徒台帳・過去帖管理

藤井 俊章



①三十三歳 ②大阪府
③五年八ヵ月
④一期一会
⑤会計担当

稲岡 義隆



①三十一歳 ②滋賀県
③七年八ヵ月
④朝の来ない夜はない
⑤別院仏教婦人会担当
モダン寺新聞担当

笠 暢



①三十一歳 ②富山県
③二年四ヵ月
④つまづく石も縁の端
⑤納骨所管理担当
門信徒のつどい

別院行事予定

四月

○第一土曜仏教講座

三日(土)

午後一時半より

講師 関西大学名誉教授

講師 園田香融 師

講題 「往く道と還える道」

○別院仏教婦人会定例法座

七日(水)

午後一時半より

講師 神戸湊組 教蓮寺

講師 橋本博水 師

講題 「仏恩報謝の日暮し」

○別院定例法座

十五日(木)・十六日(金)

午後一時半より

講師 揖龍西組 正専寺

講師 九折舜壽 師

講題 「ただ念仏して」

五月

○第二土曜仏教講座

一日(土)

午後一時半より

講師 京都女子大学名誉教授

講師 中川正文 師

講題 「子どもに何を伝えるか」

— 子どもとお念仏 —

○別院仏教婦人会定例法座

七日(金)

午後一時半より

講師 北摂組 正光寺

講師 高崎長英 師

講題 「如来とわたし」

○別院常例法座

十五日(土)

午後一時半より

講師 多賀組 正圓寺

講師 水杉悟史 師

講題 「未定」

○降誕会

十六日(日)

午後一時半より

講師 多賀組 正圓寺

講師 水杉悟史 師

講題 「未定」

六月

○第一土曜仏教講座

五日(土)

午後一時半より

講師 六粟組 西願寺

講師 佐々木大観 師

講題 「真実とは!!」

○別院仏教婦人会定例法座

七日(月)

午後一時半より

講師 高砂組 善行寺

講師 網干善一郎 師

講題 「未定」

○永代経

十五日(火)・十六日(水)

午後一時半より

講師 未定

講題 「未定」

五月十四日(金)

お供え用のおもちをつくるため、別院前庭広場にて「おもちつき」をしますので、みなさんどうぞご参加下さい。

お引越しの際は、お寺にご一報を

すっかり春になりました。この季節は、年度の始まりということもあり、学校では入学、会社では新規入社、転勤などで、お引越しをされる方もおられると思います。その際には、是非お寺の方にご一報いただけますようお願いいたします。

お寺からの連絡等がお引越し前のご住所の方に届いてしまいますし、ご遠方に行かれた場合、お寺との関係をはっきりとしてからでないとお寺の方ではまだ、自分の所のご門徒だという認識のままになってしまいます。

お引越しというものは、色々とご面倒が多いことではありますが、どうぞよろしくおねがいします。

法務日誌

表紙に紹介しました俳句は、「半俗半僧」で有名な良寛さんの俳句です。この詩は春に咲く綺麗な桜の花に、死に行く人がいれば、残る私がいる。しかし残された私もいつかは死に行く身である、というこの世の無常観を込めて詩っておられます。穏やかな季節の春に、はかなくも尊いこの命についてこの俳句を味わってみてはいかがでしょう。

九條義宣